

福岡・觀世音寺跡

1 所在地 福岡県太宰府市大字觀世音寺字堂廻

2 調査期間 一九九一年(平3)~一九九二年一二月

3 発掘機関 九州歴史資料館

4 調査担当者 栗原和彦ほか

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 奈良時代~江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

観世音寺の歴史的な性格についてはすでに周知のとおりであるので、ここでは省略するが、この地区についてはこれまでに数次の調査を行ない、少なからぬ知見を得ている。今回の第一

三〇次調査は南門跡や南面築地跡、塔跡などの遺構確認を目的とし、五箇所で実施した。その結果、心礎など若干の礎石が残存する塔跡については基壇の規模や構造などを明らかにした

が、南門や築地などについては構造などを明らかにするまでには至らなかつた。出土遺物は、各種の土器・陶磁器・瓦など、従来の調査で出土したものと大差ないが、觀世音寺周辺では五例目となる瓦経片が出土し、近くに経塚の存在が想定される。

木簡は南門跡東南部地域に位置する南北溝の北端近くで検出したもので、そこが単なる溜まりか池的なものかは判定できないが、多量の木製品や漆器の椀および土師器の杯などとともに出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「唵 元亨三年 肥後国白間野庄西光寺

五月七日 六十六部写經聖月阿弥陀仏

332×40×5 051

六十六部という語に示されるように、これは月阿弥陀仏という号をもつ僧が書写した法華經を六六箇所の靈場に奉納した際の巡礼札である。白間野庄は現在の熊本県玉名郡南関町付近に比定され、西光寺については、『玉名市史』資料編二によれば、同庄内の田原村に応永年間に草創されたという天台宗寺院にその名が見られるが、觀世音寺との関係については明らかでない。なお、ほかに一点の墨書木札が出土しているが、文字の判読は困難である。

9 関係文献

九州歴史資料館『太宰府史跡 平成四年度発掘調査概報』(一九九三年) (倉住靖彦)



(太宰府)